

## 日本陽電子科学会の過去・現在・将来

日本陽電子科学会が発足して6年が経ちました。その前身である陽電子科学研究会は1991年に発足しており、陽電子科学研究の重要なコミュニティが、20年以上の間、活動を続けていることとなります。



副会長  
長嶋 泰之  
Yasuyuki NAGASHIMA  
(東京理科大学 理学部)

陽電子科学研究会は、伊藤泰男先生、氏平祐輔先生、末岡修先生、谷川庄一郎先生、千葉利信先生、長谷川雅幸先生、兵頭俊夫先生が呼びかけ人となって立ち上げられました。発足当時の主な活動は、会報である陽電子科学研究会ニュースによる情報交換で、それがこのコミュニティを結び付けていました。1991年12月19日に発行された第1号には、O. E. Mogensen 博士からのメッセージや、ハンガリーで開催された第9回陽電子消滅国際会議 (ICPA-9) の参加報告などが掲載されています。また日本アイソトープ協会主催の「理工学における同位元素研究発表会」(現在の「アイソトープ・放射線研究発表会」)への参加呼びかけの記事も見られます。巻末には会員リストがあり、それによれば当時の会員数は62名でした。

2008年頃に、陽電子科学研究会を学会組織として運営しようというアイデアが出され、議論の末、2009年1月1日に日本陽電子科学会が発足しました。そして2014年には、日本学術会議の協力学術研究団体に認定されました。これはまさに、わが国における正式な学会組織として認められるようになったことを意味しています。

現在、日本陽電子科学会は、会報「陽電子科学」の発行、陽電子科学研究交流会の開催、それに若手奨励賞授与などを行っています。毎年7月に開催されるアイソトープ・放射線研究発表会や紅葉の頃に行われる京都大学原子炉実験所専門研究会「陽電子科学とその理工学への応用」には会員の多くが集まり、最新の研究成果の報告が行われています。原子炉実験所の研究会では日本陽電子科学会の総会や理事会が開催されます。このような体制が出来上がるまで、会長や理事の皆さん、事務局の方々、陽電子科学の発行にご尽力くださっている委員の皆さん、原子炉実験所での研究会を組織くださっているの方々など、多くの会員が多大な努力をしてこられました。

日本陽電子科学会のような学会組織に所属することは、研究を遂行する上でたいへん重要です。学会は研究者を育てる重要な教育の場であったり、叱咤激励の場であったりします。また時には会員を評価してくれます。いくら良い研究をしても、それを評価してくれる組織がなければ、世の中に認められません。この学会は、まさに会員の応援団になってくれます。特に若い会員の皆さんは、この学会が自分にとってたいへん重要なものであることを認識すべきでしょう。

今後、日本陽電子科学会は、更なる発展に向けて舵を切っていかなければなりません。研究費の面からも、学会全体の発展に向けての動きがあってもいいのではないのでしょうか。このような発想から、科学研究費補助金新学術領域研究への申請の準備が始まりました。新学術領域研究は、「研究者相互のインタラクションに基づき、新たな学問領域を切り開いたり、若い研究者を育成していくこと」を目的とした科学研究費補助金制度です。これに採用されれば、日本陽電子科学会全体の研究レベルが、さらにアップすることが期待できます。会員の皆様のご協力をお願いいたします。